

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 6 巻第 32 号

第 32 週 (8 月 7 日 ~ 8 月 13 日)

発行年月日:平成18年(2006年) 8 月 21日

発行 :滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

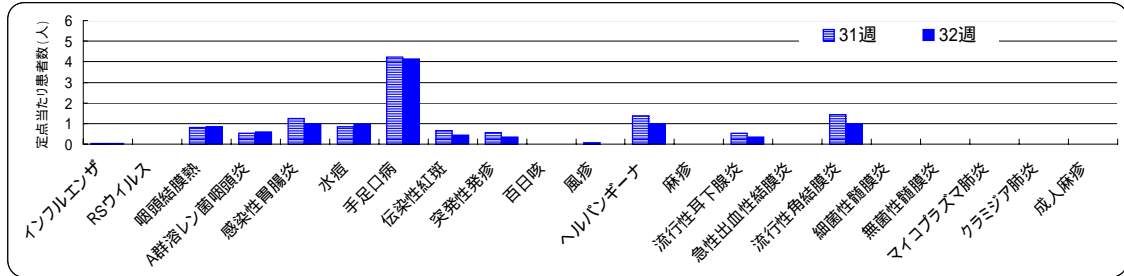
### 今週の感染症発生動向

#### 腸管出血性大腸菌感染症の発生は増加中 レジオネラ症の発生は増加傾向

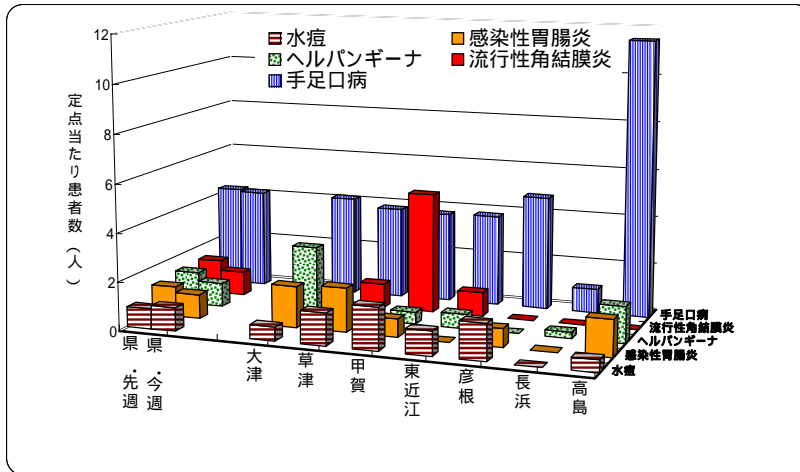
定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、先週(7月31日~8月6日)の報告数より少なくなっていますが、咽頭結膜熱、A群溶レン菌咽頭炎および水痘は微増となっています。その他の疾患については減少または変化なしとなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

全数把握対象疾患では、三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症1名および四類感染症のレジオネラ症1名の届出がありました。

#### 定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)

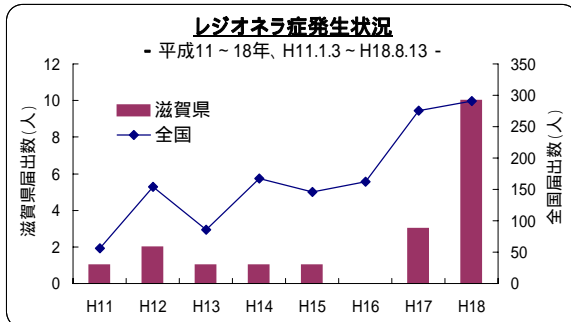


#### 上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象五類感染症、第32週、定点当たり患者数)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおりで、手足口病、流行性角結膜炎、ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎、水痘の順に多くなっており先週と同じです。  
手足口病の発生は高島で急増しており、流行性角結膜炎は甲賀で多い状態が続いています。

#### 滋賀県におけるレジオネラ症発生状況(平成11~18年)



平成18年第1~32週の滋賀県におけるレジオネラ症の発生状況の概要は下記のとおりです。

性別:男性8名、女性2名  
年齢別:30~39歳、80歳以上それぞれ1名  
50~59歳、60~69歳それぞれ2名  
70~79歳4名  
感染地域:全て日本国内  
感染経路:不明7名  
塵埃感染1名  
水系感染2名

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (32週)	累積報告数		平成17年報告数	
			滋賀 (32週)	全国 (32週)	滋賀	全国 <sup>(*)1</sup>
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	細菌性赤痢	0	<sup>(*)2</sup> 4	247	<sup>(*)3</sup> 7	556
	腸チフス	0	0	52	0	50
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4	22	1,863	12	3,567
四類感染症	E型肝炎	0	0	43	0	40
	A型肝炎	0	2	230	1	168
	オウム病	0	0	15	1	34
	デング熱	0	0	29	1	73
	マラリア	0	0	36	0	66
	レジオネラ症	1	10	291	3	276
五類感染症	アメーバ赤痢	0	7	449	5	680
	ウイルス性肝炎	0	0	153	2	277
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	99	2	147
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	4	80	0	60
	後天性免疫不全症候群	0	7	748	7	1,161
	ジアルジア症	0	1	55	0	81
	梅毒	0	3	376	0	555
	破傷風	0	0	60	0	114
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	44	2	65
	急性脳炎	0	1	102	2	180

- \*1: 平成17年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。  
 \*2: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含みます。  
 \*3: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

### 全国における全数報告感染症の発生状況 - 第32週(8/7～8/13) -

一類感染症: 報告なし	四類感染症: E型肝炎 1例	五類感染症: 後天性免疫不全症候群 14例
二類感染症: 細菌性赤痢 12例	エキノコックス症 1例	アメーバ赤痢 7例
三類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 140例	マラリア 1例	ウイルス性肝炎 6例
	レジオネラ症 9例	梅毒 5例

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点\*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。\*疾患により定点数は異なります。

### (1) 疾病別・週別発生状況(第27～32週、7/3～8/13)

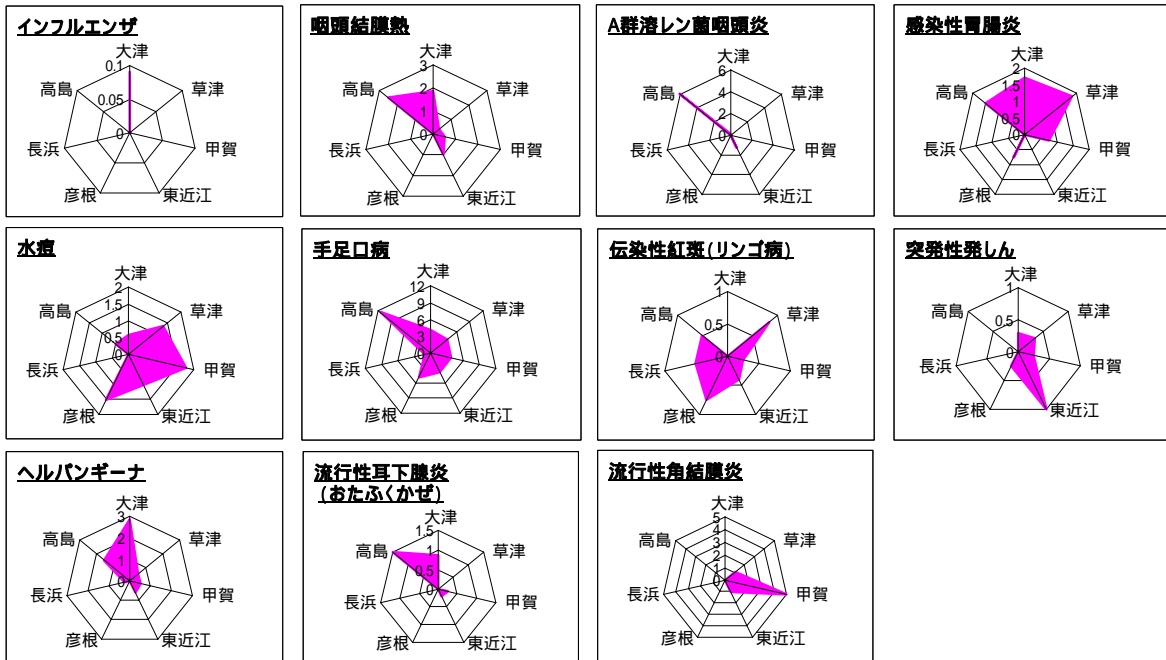
疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	週					
	(7/3～)	(7/10～)	(7/17～)	(7/24～)	(7/31～)	(8/7～)	28	29	30	31	32	
インフルエンザ	0.06	0.02	0.08	0	0.04	0.02						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	1.47	1.50	0.97	0.84	0.81	0.84						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.06	0.69	0.84	0.53	0.53	0.59						
感染性胃腸炎	1.09	0.97	1.56	1.09	1.25	1.00						
水痘	1.38	1.47	1.50	0.91	0.84	0.97						
手足口病	3.91	5.19	4.69	4.81	4.22	4.13						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.75	1.06	0.47	0.94	0.66	0.44						
突発性発しん	0.25	0.59	0.31	0.59	0.56	0.34						
百日咳	0	0.03	0.03	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0.06	0						
ヘルパンギーナ	2.56	3.78	2.09	2.00	1.38	1.00						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.72	1.03	0.56	0.63	0.53	0.34						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.71	0.86	0.14	0.43	1.43	1.00						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0.14	0.29	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第32週, 8/7~8/13)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県全体)			
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島				
インフルエンザ	0.02	0.09	0	0	0	0	0	0				
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0				
咽頭結膜熱	0.84	1.86	0.33	0.50	1.00	0	0	2.50	■			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.59	0.14	0	0	1.20	0	0	6.00	■			
感染性胃腸炎	1.00	1.71	1.83	0.75	0	0.75	0	1.50	■			
水痘	0.97	0.57	1.33	1.75	1.00	1.50	0	0.50	■			
手足口病	4.13	4.14	3.83	3.75	3.80	4.75	1.00	11.50	■	■	■	■
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.44	0	0.83	0.25	0.40	0.75	0.50	0.50	■			
突発性発しん	0.34	0.29	0.33	0.25	1.00	0.25	0	0	■			
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0				
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0				
ヘルパンギーナ	1.00	2.86	0.50	0.50	0.60	0	0.25	1.50	■			
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0				
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.34	0.86	0	0.25	0.20	0	0	1.50	■			
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
流行性角結膜炎	1.00	0	1.00	5.00	1.00	0	0	0	■			
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0				
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0				

■ は定点当たり患者数が先週より増加、 ■ は定点当たり患者数が非常に多い状態 0 1 2 3 4 5 定点当たり患者数(人)

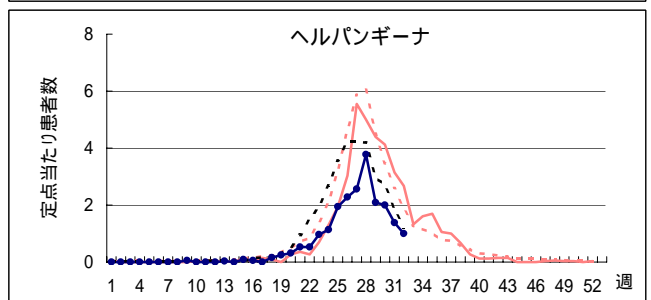
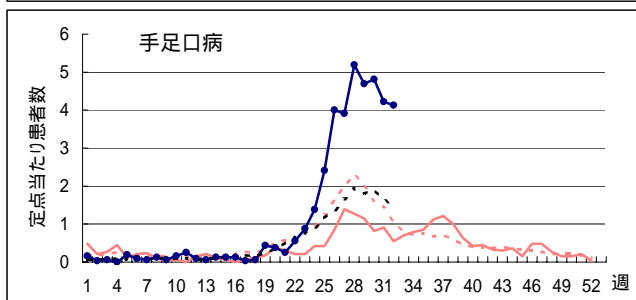
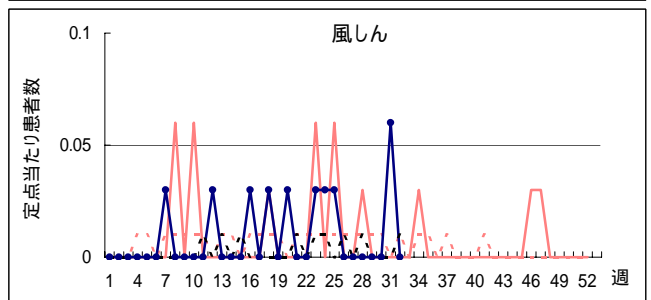
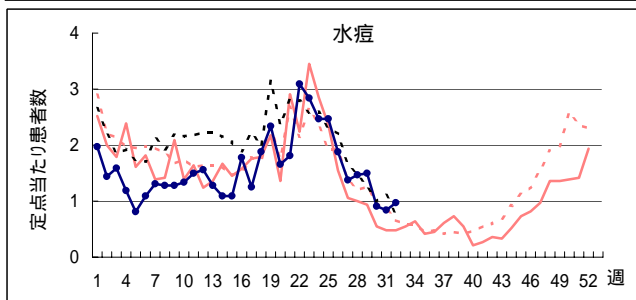
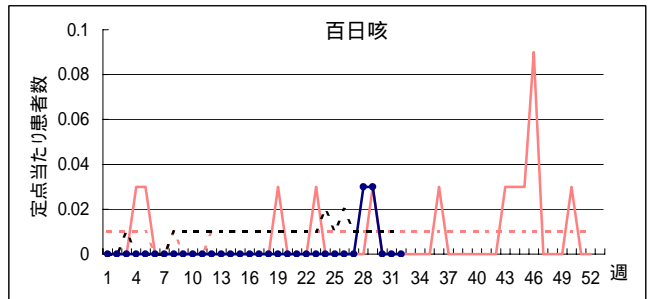
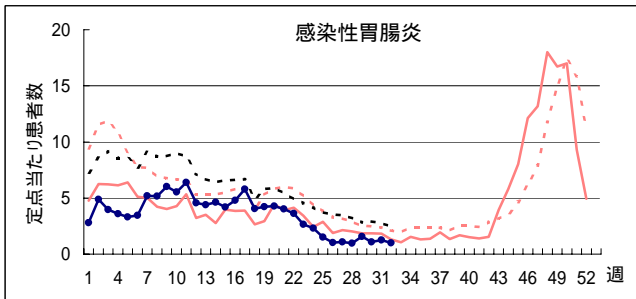
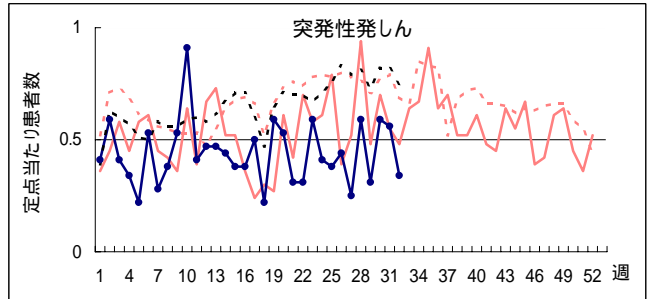
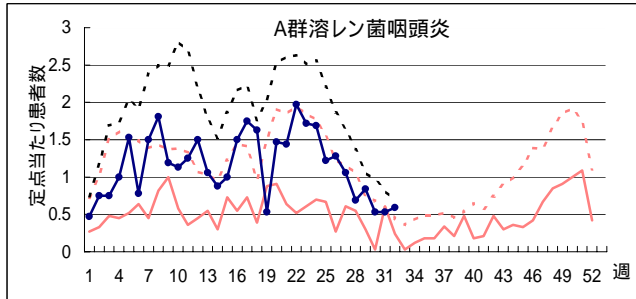
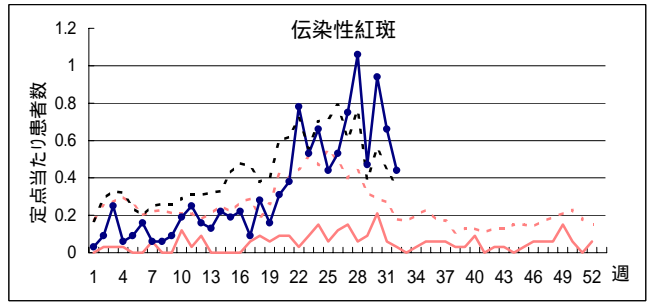
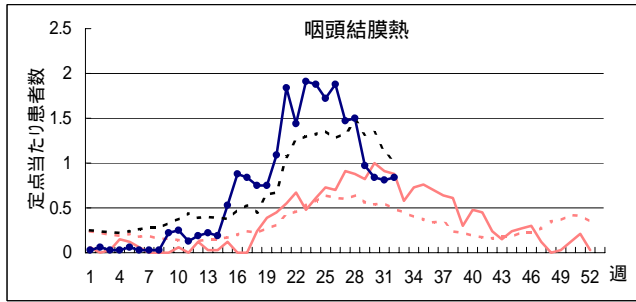
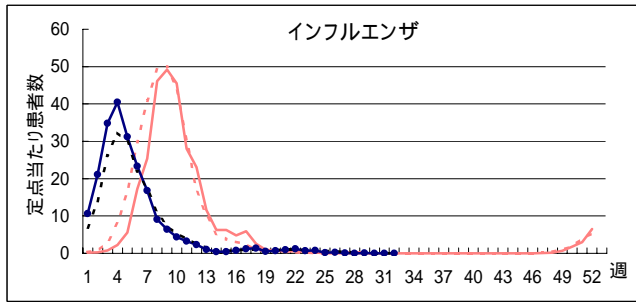
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況：保健所管内別定点当たり患者数

インフルエンザ-----大津から報告されています。  
 咽頭結膜熱-----高島で先週に引き続きやや多くなっています。  
 A群溶レン菌咽頭炎----高島で先週よりさらに増加し、定点当たり患者数は6.00と多くなっています。  
 感染性胃腸炎-----大津では先週よりかなり減少していますが、草津、甲賀および高島では増加しています。  
 水痘-----草津および甲賀で先週より多くなっています。  
 手足口病-----県全体では減少傾向を示していますが、大津、甲賀および高島で先週より増加しています。特に、高島における定点当たり患者数は11.50と非常に多くなっています。  
 伝染性紅斑-----県全体では先週より減少していますが、草津ではやや多くなっています。  
 突発性発しん-----県全体では先週より減少していますが、東近江で先週より増加しています。  
 ヘルパンギーナ-----高島では先週より減少し、大津では先週と同様にやや多くなっています。  
 流行性耳下腺炎-----東近江で先週よりかなり減少していますが、大津および高島ではやや多くなっています。  
 流行性角結膜炎-----草津、甲賀および東近江からの報告があり、甲賀では多い状態が続いています。

# 疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第32週、H18.1.2～H18.8.13)



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第32週、H18.1.2～H18.8.13)

H17 { 滋賀 ————  
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●——●  
全国 - - - - -

